

クラシックギターと電子音楽の邂逅

ジャパニーズ・テクノ 回顧と現在地

ススム・ヨコタ、レイ・ハラカミのエレクトリックな楽曲を
アヤネ・シノがギターで奏でる。
ゲストにサワサキヨシヒロを迎え、
アナログ・シンセの音色がホールを揺らす。

この日限りの特別公演！

〈演奏曲〉

■ Tobiume (Susumu Yokota)

■ joy (Rei Harakami) 他

※演奏曲は変更となる場合があります。

2025.11.1(土)

開場 17:30 / 開演 18:00

(終演予定 20:00)

※公演後、サイン会あり

会場 横浜市鶴見区民文化センター
サルビアホール 3 階 音楽ホール

チケット 全席指定 4,000 円

取り扱い LINE チケット / サルビアホール窓口



LINE チケット
購入はこちら

主催 ミュージックマイン (03 - 3499 - 4707)

共催 横浜市鶴見区民文化センター サルビアホール (045 - 511 - 5711)



アヤネ・シノ



サワサキヨシヒロ

クラシックギターと電子音楽の邂逅

ジャパニーズ・テクノ 回顧と現在地

90年代初頭、世界を同時多発的に大ブームとなったテクノ・ミュージック。ヨーロッパ、特にイギリス発のレーベルを中心にシーンを牽引する中、もう一つ、シンセサイザーや機材を製作し中心となった国である日本から、世界にファンを持つアーティストやDJが多数生み出された。あれから30年余り、今やパソコンで音楽を制作・編集するのが当たり前になった現在、そのレガシーを珠玉の作品としてあえてコンピュータから最も縁遠い楽器クラシックギターで再構築したアヤネ・シノの演奏を堪能してほしい。これによりテクノを古典として遺すと同時にジャパニーズ・テクノの後継者の最前線をアップデートしたい。

出演者紹介



AYANE SHINO

東京藝術大学大学院博士後期課程修了。博士号取得。大学在学中、学内成績優秀者に贈られる安宅賞等を受賞。卒業時にアカンサス音楽賞を受賞し、音楽環境創造科を首席で卒業。ギター、ピアノともに数々のコンクールでの入賞、国内外の交響楽団との共演を重ねる。近年では、日本国内や海外のアニメーション・映画・TVCMの楽曲演奏、ロサンゼルスラジオ番組のパーソナリティ等ジャンルを超えた幅広い活動を行っている。2020年、中国レーベルからCDアルバム「東京羅曼史」をリリースし、アジア各国で発売中。9月には、ドイツで録音したストリングオーケストラとの共演によるスタジオ・ジブリのカバー曲が、全てのサブスクリプションにてワールドワイド配信開始。2021年、2025年にはエレクトロニック・サウンドをギターで再構築した2枚のカバーアルバム「SAKURA」「River せせらぎ」が世界発売。英紙「The Guardian」や「BBC Radio」にて紹介される。現在、国立音楽大学非常勤講師、日本ジュニア・ギター教育協会副会長、日本・スペインギター協会理事。

サワサキヨシヒロ

1990年代から活動する日本を代表するテクノ・オリジネーター。
'94年ベルギーのAPOLLOより「MeditationYS」名義でシングル Slumber / Space Race を発表後、数々のエレクトロニックミュージック作品をリリース。
'99年末、東京スカパラダイスオーケストラ、FPM 田中知之氏らと「SPEED KING」を結成。武道館を含む全国ツアーを行う。2000年、岡田真澄 / 曽我部恵一 / ギターウルフのセイジといった面々がゲスト参加したアルバム「Dr.YS & THE COSMIC DRUNKARS」を発表。進歩的な姿勢で壮大な電子音を構築し、集大成と言うに相応しい作品へと仕上げた2019年、ワールドワイド・デビュー25周年記念として、1994年にリリースされた「PERFUMED GARDEN」(YS名義)、並びに1stアルバム「TRAVELLER'S LIGHT」(MUSHROOM NOW!名義)をリイシュー。人気ストリーミング放送「DOMMUNE」で特集番組を組まれるなど、益々活動的である。最新作は今年2022年、14年ぶりで温泉音楽ワークス「Naturally Gushing vol.2」をリリース！

作曲家紹介

ススム・ヨコタ

90年代初頭から音楽活動を開始、1993年にドイツのテクノレーベル「Harthouse」から発表した「Frankfurt Tokyo Connection」が国内外で話題となり注目を集めると翌94年には日本人として初めてベルリンのラヴ・パレードに出演、レイヴ・カルチャー黎明期の日本においてシーンを牽引するテクノ/ハウス/エレクトロニカのプロデューサーとして広く知られるようになる。90年代は主に「Sublime Records」、90年代末からは自身のレーベル「skintone」、さらにはロンドンの「Lo Recordings」などインディペンデント・レーベルを拠点に活動を続けていたが、2006年にはハリウッド映画『バベル』に楽曲を提供するなどメジャーなフィールドでも活躍している。長らく続いていた闘病生活の末2015年に永眠、約22年間の活動中に35枚以上のアルバムと30枚以上のシングルをリリース。没後もシーンの評価が揺らぐことなく未発表音源のリリースやリイシューなどはコンスタントに行われ、2019年にはロンドンでメモリアル・イベントが開催されるなど今なお世界中のリスナーから愛されているアーティスト。

レイ・ハラカミ

広島県生まれ、京都に居を構える電子音楽家。1996年にケンイシイの別名義のリミキサーとしてデビュー、98年に1stアルバム『unrest』をリリースした。テクノからジャズ、ロックに至るまで、多様な音楽的要素を内包したサウンドはクラブ・シーンのみならず話題となり、コールドカットやJAZZANOVA、矢野顕子からくりまで、様々なアーティストとの共演を果たす。以降も自身の作品、リミックスなど活発に活動、海外でも高い評価を得るクリエイターである。98年から2011年までに、サブライムレコードから、5枚のオリジナル・アルバムと3枚のミックス・アルバムをリリース。いずれも内外で高い評価を得た。2011年7月27日、脳出血のため死去。享年40。